

大阪アマチュア映像祭は11月17日(日曜) 北大阪ビデオサロンが新入会

第6回大阪アマチュア映像祭は、今年も大阪市中心図書館との共催により、11月17日(日曜日)13時より、大阪市中心図書館にて開催されます。今年も、北大阪ビデオサロン(守口市)が新加入し、9つのクラブが17作品を発表します。

■プログラム：①寝屋の大とんど：勝二理一郎(寝屋川市映像協会)、②タイ航空機爆発！：河合源七郎(ビデオサークル堺)、③街の表情：安居良枝(平野映像)、④当麻・中将姫練供養：上田吉巳(映像きしわだ)、⑤飛鳥探訪：浅田敏夫(北大阪ビデオサロン)、⑥沼島：石原隆行(天満ビデオサロン)、⑦木本八幡宮・奉納獅子舞：坂上司(映像きしわだ)、⑧幻の天神丸：安居利次(大阪ムービーサークル)、⑨スタープリンセス寄港す：紙本勝(大阪ビデオクラブ)、⑩青森ねぶた祭：蟹江利一(ビデオサークル堺)、⑪秋色立山：有村博(大阪ビデオクラブ)、⑫Tシャツ100展：川口彩(平野映像塾)、⑬大阪の橋：合同作品(住吉区ビデオクラブ)、⑭関地蔵院修復落慶法要：西田勇雄(寝屋川市映像協会)、⑮料理に乾杯：堀皓司(北大阪ビデオサロン)、⑯同行二人：関剛(大阪ムービーサークル)、⑰ポルトガル・ローカル紀行：合原一夫(大阪ムービーサークル)。以上17作品。

OMC映像フェスティバルへの観客動員のお願い

今年も恒例のOMC映像フェスティバルを10月6日(日曜日)13時より開催しますが、どうか知人、ご家族など一人でも多くの方が来ていただけますよう、ご協力をお願いします。

9例会のお知らせ

9月例会は28日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。暑さも和らいでいるころです。初秋の一夜、例会と二次会で楽しく過ごしましょう。作品も遠慮なくお持ち下さい。

■予告：10月、11月および12月例会は、会場の都合により、いずれも第3土曜日になりますので、手帳やカレンダーに書き入れておいて下さい。

■公開映写会のお知らせ

①第30回京都映像フェスティバル（自作映画を楽しむ市民の集い）は、9月27日（金曜日）PM5時30分より、京都府立文化芸術会館（TEL075-222-1046）で開催されます。くわしくは京都映像サークル事務局、長谷川氏（075-841-6956）へどうぞ。

②第43回神戸映像・発表映写会：10月20日（日曜日）PM1時：兵庫県民会館9Fホールにて開催されます。

■撮影会候補地をご紹介してください。ミニ撮影会から希望者だけの小グループによるウィークデー撮影会および一泊撮影会に至るまで、よき候補地があったら情報をぜひお寄せください。

8月例会のレポート

残暑厳しい8月例会日ですが、例会場は冷房が効いて快適でした。ほぼ1年ぶりに玉井さんと、3ヶ月ぶりで西村さんがそれぞれ回復され久しぶりにお元気な顔を見せてくれました。今月の司会は合原氏、書記は前田氏、デッキ係は増池氏と江村氏、受付兼照明係は渡辺氏、安居（良）さんの担当で進行しました。

■出席者：増池、森、吉岡、山本、有村、西村、安居夫妻、玉井、奥、江村、河合、渡辺、進藤、華岡、藤原、森口、松本、宮崎、前田、森田、森下、合原、岡本、中尾、江藤、上総、勝、那須、関の30氏（受付順、敬称略）

■上映（今月の短評は前田世話役です）

1. こいや祭 9分00秒 増池 茂さん

リニア編集中にビデオデッキのトラブルが発生し、ブロックノイズが入ったため、やり直したが、不十分で未完成作品ですが・・・とご本人の弁。作者は同じテーマで昨年も撮影されており、祭の様子も解っているのか手慣れた撮影ぶりでした。撮影技術は定評がおありなので、安心して観ておられます。最近全国的に人気の高い”高知よさこい祭”の浪速版。本場の祭りは商店街

を練り歩くに対し、浪速版は公園の特設舞台等固定SPOTでのお披露目です。構成は1日目、2日目、3日目とテロップが入るが、そこで流れが中断されるので、クラブ作品としては必要ないように思えました。カット変わりで音声がとぎれるように聞こえるのは、ノンリニアでは音声に軽いオーバーラップをかけて低減できるが、リニアの場合は至難の業で、そろそろノンリニアへの転向が望まれます。このところ腕を上げている作者だけに、もう少し手際よくまとめたら良くなると司会者のコメントでした。

2. 小豆島の廻路みち

9分35秒 吉岡貞夫さん

去る5月に行われた撮影会の素材を再編集されたもの。今回はお廻路さんに絞って作られています。題名からすると、棚田の情景が多すぎた様な感じがします。小さな棚田で田植えをしているアップは画としては、興味をそそられるがこの作品の主題からは無関係なのでカットし、棚田のロング全景で島の様子を見せる方がよいように思いました。またナレーションが多いので、もっと減らしてもよいのではないかと、ラスト近くの急坂を下る女性のお廻路さんが笑っていたが、このカットを使うことはどうか？という意見もありました。

3. スコータイ 4分10秒 山本正夢さん

先月に引き続き2作目は、タイ僻地の寺院の映像です。世界文化遺産に指定されているようで、なかなか立派な建造物です。バンコクから300Kmほど離れているため、観光客も少ないとのこと。早朝のシルエットは綺麗で息をのむような情景でした。本来は拝観料が必要ですが、早朝に訪れたために無料で拝観してきましたと、内輪話を披露されました。大きな仏像の前で現地の人か僧侶が拝んでいる情景が一瞬映しだされたが、出来ればあの僧侶にもう少し近づいて撮ることが出来たら、良かったのにと惜しまれました。風景だけでなく現地の人々、特にお参りする人物があると、ぐっと引き締まるので今後このような作品を撮る場合には心掛けるとよろしいと思います。2カット目の人物が光量不足で感度

が上がりすぎていたので、カットする方がよい、また小さな三脚を持参した場合は、固定ショットでカメラから手を離して撮影し、揺れないカットのみを使うようにとのアドバイスがありました。堅実な撮影技術と編集テクニックをお持ちだけに、今後が期待されます。

4. カナディアンロッキーをゆく

8分29秒 有村 博さん

作者お得意の海外旅行もの。カナディアンロッキーがテーマの作品の何作目かと思いますが、作者が云われたようにノンナレで旅の記録、紀行という面からしては前作の方が良かったと思いますが、この作品はあまり肩を張らずに気楽に纏めた作品と見受けました。美しい自然の連続の合間にリスなど動物が挿入されていてほっとした感じを受けました。落差410メートルのタカカウ滝の迫力には圧倒されます。しかし、この滝のシーンでもBGMが低めの流れていますが、SEだけにしたほうがより迫力を感じたように思います。さすがに空気が綺麗なためか、好天とは言えない気象条件ですが、映像は綺麗で楽しめました。

5. ちょっと海遊館

5分26秒 安居良枝さん

作者のテーマ発掘の視点には、いつも新鮮みがあって、“こんなテーマがあったのか？”と観る者に思わせる独特の発掘力を感じます。以前はやはり海遊館で、クラゲだけを扱った作品がありました。今回は、「群れる」「食べる」「学ぶ」「驚く」「寝る」と魚の生態に独自の視点でサブタイトルを付ける手法は面白いと感じました。ただ「驚く」は作者自身の驚きを表しており、ほかのサブタイトルと共通性がないので、名前を変えた方が良いのではないかというコメントがありました。給餌のカットや“お休み”のシーンなどなかなか撮れないカットを苦勞して撮られたようで、それだけに新鮮みがあり興味深く観賞しました。

6. 恐竜って面白く悲しい

8分10秒 安居利次さん

このところ作者の作風が変わってきたように思います。先月の作品「鬼は山の民だった」にしる、今月の作品も作者の主観・

主張が強く全面に押し出されています。この作品もまさにその通りで、恐竜の何処が面白いのか、筆者には理解の限度を超えています。作者の顔が随所に出てくるのも、こだわりでしょうが、少し多すぎたように見受けました。もし本物の恐竜が目前に現れたら、面白いどころか体が凍り付いて一歩たりとも動けないのではないかと、そして肉食恐竜の餌食になるのがオチではないかと思ったりしました。作品はプロの映像なども随所に挿入されて楽しめるし、勉強になります。アマチュアはプロが作った映像を使うべきではないという議論もありますが、この程度で個人的に楽しむ（コンテストには出品しない）のなら許容範囲内（出所も明示されている）ではなかろうか、と筆者の個人的見解です。

7. 竹の精霊 6分10秒 玉井 さん

入院治療後1年ぶりに制作されたとは思えないほどの素晴らしい作品、腕は落ちていないことの証明です。越前の「竹人形の里」で撮影した竹細工職人と精緻な竹人形に、京都の竹林の風景を織りなして不思議な雰囲気醸し出しており、作者の表現力の豊かさを感じます。竹人形の里では、手持ち撮影だそうだが、手持ちであることを判らせない技法はなかなかのもの。太い孟宗竹から、竹人形へのゆったりとしたオーバーラップのシーンでは、かぐや姫伝説の1コマを彷彿させてくれました。タイトルは、水上勉の小説「竹の精霊」から採ったそうですが、この作品を観ると小説を読みたくなるような気持ちにさせてくれる秀作です。

8. 夏日 4分20秒 江村一郎さん

江村さんの作品は、これまでは比較的判り易かったのですが、今回の作品はなかなか難解です。解説無しにこの作品を鑑賞して、作者の意図を理解できる人はいないでしょう。作者の弁によると、“女性も年をとるが、若いときは美しかった。人のタイムマシンを自分なりに映像で表現したかった”とのことです。女の老人がテレビを見ているシーンから始まって、その女性の高校時代の写真から年代を経て白黒写真がカットバックで挟み込まれている。それ

外の映像は題名のとおり夏の日のアップのカットが、江村タッチで撮影されています。これらの夏日のカットと女性の年代を経た写真との組合せで、作者は”若いときの女性は美しかった”と人の一生を表現したかったのでしょうか、そこに作者のひとりよがりを感じられます。女性のカットをすべて抜いたら、タイトルピッタリの映像詩になるのだが・・・という意見に集約されていたと思います。しかし江村作品は、出品する度に色んな話題を提供することから、大いに期待されている異色の映像作家であり、今後もこのような異色作を撮り続けて欲しいと思います。

9. 花畑を往く

5分04秒 河合源七郎さん

北海道の東端、野付半島のお花畑を訪問した記録。半島途中のトドワラまでは観光バスも通う観光地ですが、さこから先は人の行かない未踏の地だそうです。そこへ足を踏み入れた作者の自然と草花に対する強い思い入れを感じました。「秘境？に近いような場所で撮影した作品にしてはタイトルが平凡で損をしている、工夫して欲しい。草に覆われた嘗ての廃道をかき分けて歩くカットの音処理に違和感があつた」、との司会者のコメントがありました。BGMに”エデンの東”の主題曲が使われています。音楽的には合っていると思いますが、ジェームス・ディーンの顔が浮かんできてやはり損をしています。有名な映画音楽は使わない方がよいでしょう。

10. 山行楽 8分37秒 進藤信男さん

”山行楽”と書いて”山行きの楽しみ”と読ましています。映写が始まってタイトルがでると、動きのある文字でそのように表示されて、一同笑いとともに皆納得。山行きの仲間と共に鈴鹿山系の鎌が岳を登山したときの記録。このような山行きの記録を三脚を持参して撮影することは至難の業には違いないことは理解できますが、結果としての映像は、やはりそれなりの出来になっています。小さな三脚でもいいから、途中は手持ちで、頂上へ着いたときの映像だけでもガッシリと三脚使用で撮られていたら落ち着いて鑑賞できたことでしょう。

なかなか険しい登山道のように苦労して上る仲間の足元や、手元のアップがもっと沢山欲しいというコメントがありました。

11. タイの浜辺の営み

9分10秒 森田光春さん

タイの塩田風景と手染め鰯鱈染めの現場を紹介した作品。かつて40年ほど前には、瀬戸内でも行われていた、過酷な塩田の労働風景。撮影場所の制約からでしょうか、近づいてアップが撮られていないのが残念です。画面は一転変わって鰯鱈染めのシーンになりますが、両者の関連が判りにくい感じがします。何か繋ぎ方に一工夫がなかったのでしょうか？インサートとして海底の1カットが短く入れてあります。次の手染めの絵柄の伏線になっていますが、カットが短すぎてその意味が判りにくかったようです。手染めの最中に、このような海底のカットを幾つかカットバックとして入れるのもひとつの手法と思います。ロングの塩田風景が延々と続くので、これをもう少しカットしたほうが良いのではないかという批評もありました。カラフルで綺麗な映像でした。

12. タンゴのさと

11分10秒 上総修一郎さん

アルゼンチンへ旅したときの記録ですが、アルゼンチンタンゴ発祥の謎に迫ってみようという努力作です。現地で日系人のガイドを雇ったのは成功でした。外国のこの種の作品は現地ガイドがいるのとないのとでは作品の出来に大きな差が出るようです。OMC公開映写会上映作品です。

以上で例会を終え、いつものように喫茶組とお酒組へと別れて二次会へ席を移した。

■投稿のお願い

随想、ニュース等何でも結構ですから、投稿お願いします。分量は問いませんが、200～800字程度。送り先：前田宛、メール、手紙で。

■インターネット情報

ネット版ニュースをご覧ください。

■今月のインターネット作品

玉井作品 「竹の精霊」です。